

住人十色

第 152 回

町の宝を磨き続けて47年—— 稲本隆壽さんが旭日双光章を受章

稲本 隆壽^{たかとし}さん(70) 〓 喜田村 〓



◎自宅取材にに応じてくれた稲本さん。「在職中、毎日お弁当を作ってくれた妻にも感謝している」と照れながら話してくれました。

春の叙勲受章者が4月29日付で発表され、前内子町長の稲本隆壽さんが「旭日双光章」を受章しました。稲本さんは1974年に旧内子町役場に入庁してから町職員、町長として47年間にわたり内子町のまちづくりに貢献しました。

受章について稲本さんは「皆さんがこの町をもっといい町に、もっと豊かな町にしたいと、それぞれの役割を果たしてきたことで今の内子町の輝きがある。個人ではなく町の人々を代表して受章したという思い」と感謝の気持ちを表します。

退任から1年数カ月がたち、「読めていなかった本を少しずつ読み進め、魚釣りも楽しんでいる。やりたいことが多くて、人生は短すぎる」と笑う稲本さん。本格的に稲作を始めたそうで、「自然の中で農業をする大変さに向き合いながら、一生懸命に米を作っていた祖父母や両親に思いをはせている。田舎の空気や田んぼが好きな友達も集まるので、交流を楽しみにして励みたい」と話します。

最後に「町並みや内子座、道の駅から、文楽など、内子町には全国へ発信できる素晴らしいものがたくさんある。職員の皆さんには、都会にはない町の宝を磨いて、地域や農村が元気になるよう尽力してほしい」とエールを送りました。

編集 幸記

▽稲本前町長の取材時畑で作っていたスナックエンドウをもらいました。オリブオイルで炒めて塩コショウするのとおしいとのことと試してみると、ビールが止まりません。前はマヨネーズ派でしたが、今後はオリブオイル派を名乗ります(裕)

▽夕焼けに染まった泉谷の棚田は幻想的で、思わず見入りました。美しい田んぼは、管理する皆さんの苦労があって保たれていることを実感。田んぼで大はしゃぎする子どもたちの笑顔にも元気をもらいました(史)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

